

読売新聞(朝刊・奈良)

2025.8.31

「お疲れさま」車窓から 生駒

毎週金曜の朝、近鉄生駒駅（生駒市）の近くで、生駒線の電車が到着する直前にあわせて、「今週もお疲れさまでした！ 気をつけて行ってらっしゃいませ」と書かれた看板を手に立っている男性がいる。

線路わきでレンタルシアターを営む柴田達人さん（62）が昨年11月に始めた。長年鉄道会社に勤め、通勤電車の大変さはよく知っており、「平日最後の日に疲れを癒やしてほしい」との思いを込めて、店の前で午前8時台の電車に向かって看板を掲げている。一方で「乗客らにどんな反応があるか試してみよう」という遊び心もあったと明かす。

電車はスピードを落としていて、柴田さんからも車内の様子がよく見える。最初は不思議そうな顔をする人もいたが、そのうち手を振ってくれる人が現れた。運転士も会釈してくれているような気がするという。



電車に向かって店先で看板を掲げる柴田さん（生駒市で）

「何て書かれているのか気になる」と店まで訪ねてきた人も。大阪市内の会社に通う女性（55）は「これから仕事という重い気持ちが少し軽くなるような気がする」と笑顔を見せた。

柴田さんは「クスッと笑ってもらうだけでいい。反応があると乗客とコミュニケーションがとれているようでうれしい」と顔をほころばせる。これからは週末は立ち続けるつもりだ。